

FUJITSU Managed Infrastructure Service FENICS II M2Mサービスと ボーダフォンとのパートナーシップについて

2014年9月25日

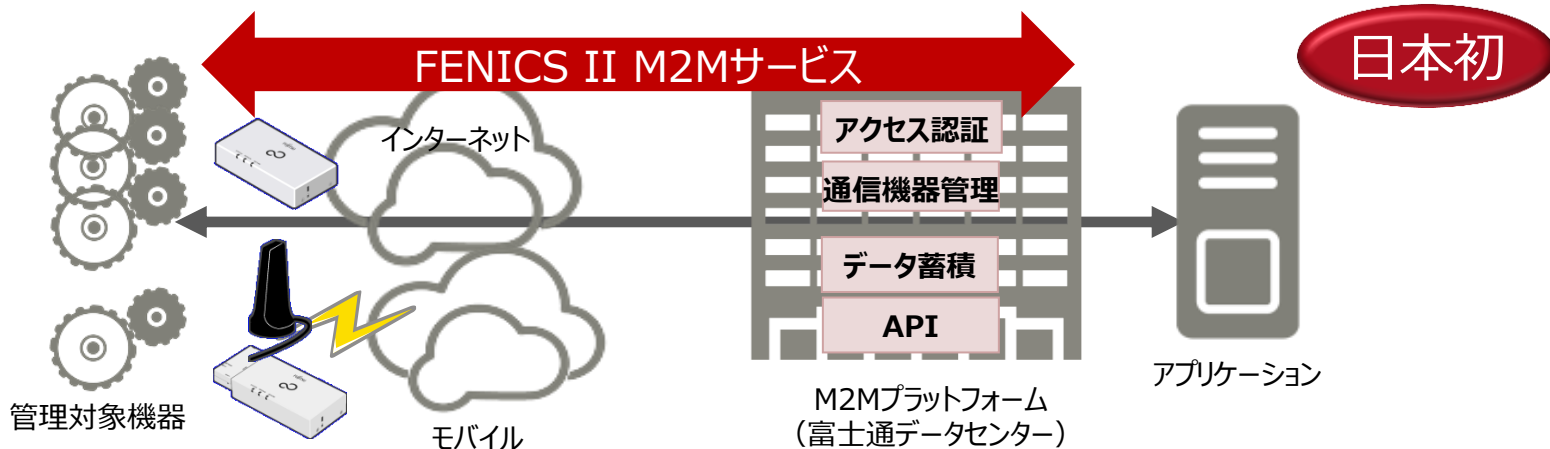
富士通株式会社

ネットワークサービス事業本部IoTビジネス推進室

シニアディレクター 大澤 達蔵

FENICS II M2Mサービスの概要

- 2010年、日本の通信事業者として初めて、グローバルM2Mサービスを開始
 - それまでは、国際ローミングを利用するか、海外キャリアとの直接契約が必要であった
- 通信機器、ネットワーク、クラウドをワンストップに提供
 - グローバルに製品を販売する製造業のお客様を中心にご利用いただく



ボーダフォンをパートナーとして選択した理由

FUJITSU

- グローバルでのエリアカバレッジ
 - 豊富な直接提供国/ローミングパートナー
- グローバルM2Mでの豊富な経験と実績
- 先進的取組みと技術サポート
 - M2Mプラットフォームの自主開発
 - 富士通プラットフォームとの連携機能開発に関する強力なサポート



FUJITSU



M2Mサービス開始当初からボーダフォン回線を提供

パートナーシップにおけるお客様の利点

- ワンストップでのM2M立ち上げ
 - SI、クラウド、国内ネットワーク等との統合
- グローバルキャリア利用のハードルの軽減
 - 日本語契約/サポート、トライアル環境の利用
 - スモールスタート(1回線からご利用可能)
 - 富士通M2M基盤のUI/APIを通じて
検証済みのボーダフォン基盤機能を活用可能
- 富士通の4年に渡る運用ノウハウの活用
 - 利用者視点監視、トラブルシューティング

利用者視点監視の例



通信キャリアからは
測定困難だが、
トラブル切り分けに
重要

具体的事例：川重冷熱工業株式会社様

- 汎用ボイラー/吸収冷温水機の
テレメンテシステム
- 社内はもとより代理店、お客様との間でも
情報の共有を実現し、故障対応を迅速化
- グローバル対応、SI/クラウド含めたワンストップ
提供により、富士通経由ボーダフォンを選定
 - 利用者視点監視機能を活用
 - SIM活性/非活性制御機能を活用

※詳細は富士通ホームページの導入事例を参照ください



(例)汎用ボイラー

今後の取組み

■ M2M適用市場の拡大をリード

- 世界初、M2M-GWによる仮想オーバーレイネットワークを提供しM2M適用市場を拡大
※ボーダフォン回線とも連動

■ M2MからIoT(Internet of Things)へ

- モノ(Things)だけでなく、ヒトも含むあらゆるコト(Things)もつなげ、お客様価値を最大化
- IIC(Industrial Internet Consortium)のステアリングコミッティーに日本企業として初めて参画

Interop TOKYO 2014
Best of Show Award
IoT/M2M部門特別賞



特別賞

三菱電機様FA
パートナープログラムに対応

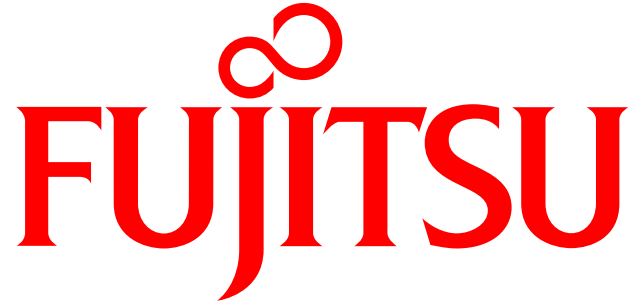


世界初



M2M-GW

IoT時代に向けてボーダフォンとの連携を拡大



shaping tomorrow with you